

- ◇ 令和 6 年 1 0 月 2 3 日 (水)
- ◇ 9 : 3 0 ~ 1 2 : 0 0
- ◇ 三川中学校 多目的室

授業参観 9 : 4 0 ~ 1 0 : 2 0



◇ 学校運営の状況報告 橘 正敏 校長

- ・先月行われた体育祭。3 年生の学級数を基準にした組分けだったので今年は 3 つの組となった。来年度からは 2 つの組となる。生徒会主催の縦割りでのコミュニケーションづくり集会も実施した。生徒が主体となりよい活動を行っており生徒たちの雰囲気もよい。

- ・生徒の声第 1 期アンケート結果 (①あてはまる②どちらかといえばあてはまるを選んだ割合)

「学校が楽しい」 R5.93.8%

1 年生 9 6 . 1 % 2 年生 9 0 . 4 % 3 年生 1 0 0 % 学校全体 9 5 . 5 %

「みんなで何かをするのは楽しい」 R5.97.2%

1 年生 9 8 . 0 % 2 年生 9 6 . 1 % 3 年生 9 6 . 6 % 学校全体 9 6 . 9 %

「授業に主体的に取り組んでいる」 R5.88.7%

1 年生 9 4 . 1 % 2 年生 9 0 . 4 % 3 年生 9 8 . 4 % 学校全体 9 4 . 3 %

「授業がよくわかる」 R5.89.8%

1 年生 9 4 . 2 % 2 年生 9 2 . 4 % 3 年生 8 4 . 8 % 学校全体 9 0 . 5 %

「自分にはよいところがある」 R5.74.0%

1 年生 8 8 . 2 % 2 年生 8 0 . 8 % 3 年生 8 8 . 1 % 学校全体 8 5 . 7 %

「友だちは、あなたのよいところを認めてくれる」 R5.95.5%

1 年生 9 8 . 0 % 2 年生 8 8 . 5 % 3 年生 9 4 . 9 % 学校全体 9 3 . 8 %

6 項目の質問項目から見るとよい傾向が続いている。「授業改善」に先生方が真摯に取り組んでくれている。秋田の羽後町関係者が学校を訪れた際も「授業がよくわかる」の数値が高いことについて、本校の取り組みへの質問があった。

- ・全国学力・学習状況調査の結果についてだが、今年度は、国語と数学の 2 教科の実施だった。国語は、県や全国の平均正答率を下回り、数学については、県や全国の正答率を上回る結果だった。国語の正答率が下回りはしたが、生徒の意識に関する質問で「国語の勉強が好きですか」「国語の授業の内容はよくわかりますか」がそれぞれ県や全国平均より大幅に上回っている。

- ・生徒の意識調査で県や全国よりも5ポイント以上高かったのは「健康に過ごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを、普段の生活に役立てていますか」という項目である。それを示すように、先日、よい歯の学校表彰で県の最優秀をいただいた。
- ・そのほかには次の項目が上回った。
 - 「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」
 - 「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」
 - 「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」
 - 「学習した内容について、分かった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」
 - 「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができていると思いますか」
 - 「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」
 - 「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」
 - 「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」
 - 「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」
- ・魅力ある学校づくりと関連する項目では、「自分には、よいところがあると思いますか」「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」「学校に行くのは楽しいと思いますか」が県や全国平均よりも上回っている。
- ・県や全国平均よりも5ポイント未満の差があったのは、「毎日、同じ時刻に寝ていますか」「人が困っているときは、進んで助けていますか」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」の項目である。
- ・いじめの認知件数にかかわっては、学年を追うごとに減少傾向にある。
- ・1年生は欠席の少ない学年である。三川中学校では、「Mitte（ミッテ）」（教室以外の生徒の居場所）の効果的活用・運営に努めている。
- ・全国学力状況調査の結果等については、職員会議などで情報共有しながら指導に役立てている。

◇ 学校運営の状況等に対して 委員の方々より

- 我々が受けていた教育のことを考えると、常に平均化されていたというかまっすぐに黒板に向かい話を聞いていた感が強かった。今は、個人差も大きく多様な価値観を大切にしている。自分は作物を作る仕事をしているが、良いものも不出来なものもあるのが当たり前で、平均して作物が育てばよいとしている。今日の授業参観で、教室前に掲示されていた生徒個々の感想を読んでいると大きな個人差を感じた。自分として、今までは、どうしたら平均化できるかという考えで見えていたが、個性という点で一人ひとりを尊重してもいいのだと感じるようになった。

- 情報機器を効果的に使える子にとっては、タブレットのような ICT 機器は自分の能力を伸ばすのによいものかもしれないが、手で書くことを得意とする子もいるのではないか。そういう子たちがいる中、一律に「使う」としなくともよいと思う。国が授業での情報機器の導入を推進しなくとも、活用する子はだまってでもどんどん活用していく。逆に、情報機器を活用しすぎてダメになっていく子もいるのではないか。
- コロナもありデジタル化が急速に導入され、学校としても大変だったのではないか。手段や目的がはっきりしてないで詰め込まれても現場は混乱する。読売新聞で「教科書は紙ベースで」という記事があった。それは、国が推進するのではなく、生徒本人が選ぶものだと思う。自分は読書が好きだが、その時間がなく Amazon Audible（アマゾン オーディブル）を使用し、本の朗読を聞きながら仕事していることがある。とても幸せを感じる。人が変われば、また、状況が変われば道具の使い分けが大事である。今の中学生は忙しい。道具の使い分けこそ大事だと感じる。
- 修学旅行説明会の時、小遣いに関して、自分たちの時は学校が決めていた。今は、子どもたちが自分たちで話し合いをして決めたという説明があった。子どもたちの考えを大事にしている学校で、子どもたちが決められることに親が口を出す必要もないと感じた。
- 民間クラブを選択するときにも親のエゴは出さないようにしていた。今は、子どもが小学校のときから親が「あそこに行かせたい」ということをよく聞く。もっと子どもの考えを聞いて選択させることが大切だと感じる。これまでは中学校の部活動が支えてきたものがあつたと思うが、最近は中学校から始めたいという子どもに対応できる受け皿が無くなりつつあると感じている。
- 中学時代に民間クラブに入ることが負担に感じることはないのだろうか。勉強時間や睡眠時間の確保が難しいのではないか。選択肢が多くなりすぎた（多様化）結果、学校生活から離れ、個人中心になりがちになってきたように感じる。
- 今の中学 2 年生は、小学校の 3～4 年生の時期にコロナ化を迎え「密になるな」「無理に学校へくる必要はない」などの指導があり、友達とのかかわりが阻まれた世代であると感じている。

◇ 熟議テーマ「地域（ふるさと）へ思いを寄せる子どもの育成」について

- 小学校 3 年生から活用している社会科副読本（私たちの三川町）を提示しました。地域学習の資料集になります。委員の方の中にはこの資料の存在を知らなかったりする方もおられたので今回提示しました。今の子どもにこんなことも内容に入れたらということがあれば聞かせてください。
- 大人用には以前「三川探訪」があつたが、この児童用の副読本も大変まとまっている。以前から使われてきたのか。
- 前から使われてきている。教科書改訂の時に変えている。三川町の小学 3 年生に毎年配付している。
- 三川町全体での秋まつりなど、現在実施されているものも載せていいのではないか。

- 町の安全という視点で防災関係の充実も大切にしたい。今年のような大雨による川の氾濫はこれまで住み続けてきた住民も初めてだった。線状降水帯がかかるとハザードマップにない状況が生じる。
- 防災のページを設け、授業で子どもたちに示している。保護者の方からもぜひ見てほしい。
- 小学生がとらえる地域は小学校区を示している。中学生になると視野が広がることで三川町全体や庄内を示していく。中学生になると地域のことに関わりが薄くなるとよく聞かすが、中学生の意識調査では地域を大切にしていることがわかる。
- 小学生や中学生の段階では、比較対象が少なく、三川を離れて初めて三川のよさを知ることとなる。三川のよさと言えば、三川の給食のおいしさだが、給食の米に三川町の品質の良い米を使っていることなどを知って、他の地域と比べることで、三川のよさがわかることにつながっていくと思う。
- 町のイベントも様々な機関でやっている。子どもだけではなく大人も一緒にやるのが大事。中学生が主体になって芋煮を作り町民に振舞うようなこともよい。
- 一時、都会暮らしをして三川に戻った時に一番感じたのが夕日の大きさだった。地域のよさを小さな時にこそ感じとってほしい。地域行事等へ参加させる機会を大事にすることが地域への思いを育てることにつながる。



